表 シカゴ連銀経済報告（2022年11月30日公表）

項目	動向	関係者報告・背景
雇用と賃金	雇用は緩やかに（moderately）増加 賃金は緩やかに（moderately）上昇	労働者の離職率は低下したが、依然として部門やスキルを問わず労働者を見つけることが困難となっている。全体として、賃金と福利厚生のコストは、前報告期間よりも遅いペースで緩やかに増加した。新規雇用の獲得と既存の人材の維持のために、報酬が引き上げられている。
物価	急速に(rapidly)上昇	上昇のペースは前回の報告期間よりも緩やかになっており、関係者は今後12カ月の間にさらに減速すると予想している。生産者物価は、エネルギー、輸送、原材料のコスト上昇を反映して、緩やかに上昇した。消費者物価は、堅調な需要とコスト上昇の転嫁により、一般的に上昇した。一方で、コスト上昇圧力が緩和される兆しも見られた。
個人消費	ほとんど変化なし	自動車以外の消費者支出はわずかに増加し、映画チケット、家具、家電製品、ペット用品の売り上げが増加したことが報告された。衣料品への支出は減少し、販売促進費は増加した。自動車の新車・中古車販売台数はやや減少し、ディーラーからは車両価格や金利の高騰が需要を抑えているとの指摘があった。
企業支出	ほとんど変化なし	小売在庫は全体的に上昇しており、小売業者は新型コロナ禍前までのレベルに引き下げることを計画していると報告された。サプライチェーンの問題により、企業が「万が一に備えて」部品や部分的完成品を保持するようになったため、在庫は依然として上昇した。設備投資は、新規設備（一部自動化設備）やソフトウエアのアップグレードを中心に堅調に推移した。商業用、住宅用、工業用のエネルギー消費に対する需要はわずかに増加した。
建設と不動産	控えめに（modestly）減少	住宅建設は、主に一戸建て部門で小幅に減少した。一戸建てと多世帯住宅の両方で、遅延やキャンセルが増加した。住宅用不動産の動きは緩やかな減少にとどまった。住宅購入者は、住宅ローン金利の急上昇にショックを受けている。住宅価格は小幅に下落したが、賃料は再び上昇した。非住宅建設はほとんど変化がなく、工業用地の建設とオフィスの改装が堅調に推移しているが、建設コストや金利の上昇により、一部のプロジェクトは非常に遅い動きとなっている。材料費と労務費は引き続き高騰している。商業用物件の取引は小幅に減少し、価格と賃料はわずかに下落した。商業用空室率、利用可能なサブリーススペースは若干増加した。
製造業	わずかに（slightly）増加	受注残はわずかに減少したと報告された。生産は増加したが、労働力やサプライチェーンの課題で引き続き抑制されている。鉄鋼需要は緩やかに増加、加工金属の受注と生産は横ばいとなった。防衛やエネルギー分野からの需要は増加したが、建設分野からの需要は減少した。自動車生産はわずかに増加し、企業関係者は2023年まで生産量を支える潜在的な需要を期待している。大型トラック生産は小幅に増加したが、受注残は依然として非常に大きい。重機の需要は横ばいとなった。
金融	ほとんど変化なし	株式・債券市場の関係者は、資産価値の増加とボラティリティ（値動きの大きさの度合い）の低下を報告した。関係者は企業向けローンの量は全体的に横ばいで、借入金利の上昇と不確実性の高まりが需要に水を差していると指摘した。企業向けローンの質はわずかに低下し、ある担当者は資本財、小売、耐久消費財部門の顧客の間で低下していると指摘した。企業向け融資の基準は小幅に引き締まった。消費者市場では、金利上昇に直面して住宅ローン融資の減少が続き、融資額は小幅に減少した。消費者ローンの質および基準には変化はなかった。
農業	トウモロコシと大豆の収穫が好調で、収入への期待が高まる	干ばつによる収量不足はあったものの、管轄地域のトウモロコシと大豆の収穫量は前年に近かった。河川水位の低下によって、貨物を運ぶ小型船の積載量減少したため、輸送コストが上昇。トウモロコシの価格は下落し、大豆の価格は上昇した。卵と牛の価格は上昇したが、乳製品と豚の価格は全般的に下落した。
地域社会の状況	経済活動はほとんど変化なし	州政府関係者は、報告期間中の税収の健全な伸びを報告した。中小企業や非営利団体では、支払い可能な範囲の賃金での雇用が引き続き困難な状況にある。低・中所得世帯を支援する非営利団体が提供するサービスへの強い需要がある。収入の減少に直面する非営利団体のリーダーたちは、どのサービスを提供し、どのサービスを削減するかという厳しい選択を迫られている。

（出所）シカゴ連銀経済報告を基にジェトロ作成